

地域福祉フォーラムを活用した居場所づくり ～木更津市岩根東地区社会福祉協議会の取り組み～

基本データ

実施主体	岩根東地区社会福祉協議会（助成期間：平成 19 年度～21 年度）
地域の現状 （市内地区社協数 15）	千葉方面からの木更津市への玄関口であり、JR内房線、アクアライン、国道 16 号線に囲まれた住宅地域として発展。地域内はもとより、周辺にはアウトレットモール等の商業施設群や高速バスターミナル等もあり、生活環境に恵まれ、利便性がよい地域。人口 8,694 人、4,044 世帯、高齢化率は 30.3%、0-14 歳割合は 12.1%。（H30.5.1 時点）
参加した人 ※：助成期間終了後～平成 30 年5月現在、岩根東地区まちづくりに参加した団体	市社協、公民館、区長会、地区民児協、保護司、更生保護女性会、婦人会、中央通り商店街、農家組合、保育園・幼稚園、小・中学校、小・中学校PTA、青少年補導員、青少年育成住民会議、消防団、少年警察ボランティア、防犯指導員、交通安全協会支部、あいあいの会、＊自主防災会、＊桜まつり実行委員会、＊桜の会、＊祭り囃子保存会、＊祭礼実行委員会、＊公民館サークル連協、＊公民館運営審議会委員等、
話し合った内容	地域環境の現状認識と福祉課題の共有化、サロン活動について
事業概要	ふれあいサロン、地域諸団体の活動助成、敬老会、友愛訪問等

1 地域福祉フォーラムに取り組んだきっかけ

県内外地区社協の地域の現状と将来を見据えた取組みを知り、自地域との取組みの違いに気付かされ、地域住民として危機感をいだいたことがきっかけで、地区社協役員向けに地域福祉フォーラム勉強会を開催、申請へとつながった。

2 活動の内容

1 年目 （19 年度）	地域福祉フォーラムを実施する前に、地域福祉フォーラムとは何かを知るため、地区社協役員や区長、民生児童委員を中心に地域福祉フォーラム設置準備委員会（事務局は岩根東地区社協）を設立した。その中で、地域を取り巻く環境変化の把握と予想される問題について話し合いを実施した。
2 年目 （20 年度）	地域に関係する諸団体等の 81 名へ地域福祉フォーラム開催を案内し、広く参加者を募り、地域福祉フォーラムを開催。地域の実情を把握するため、地域福祉アンケートの実施を検討する。また、有志によるサロン活動をモデル的に実施してみようとする動きが出る。



ふれあいサロンの様子



岩根こどもフェスティバルの様子



「ふまねっと」活動の様子

3年目 (21年度)	2年目に実施した地域福祉アンケート（地域諸団体のリーダー110名）の結果報告を行い、地域の実情について参加者で共有を図るとともに、地域福祉活動の必要性を高めた。また、意識を高めるだけでなく、自分たちでできることとして地区社協が中心となって「ふれあいサロン新御堂寺」を開設した。開設の際の会場確保は、地区内にあるお寺の全面協力によるもので、毎月第2水曜日は、定期的に使用できるようになった。開催の日や曜日、時間を同じにすることで、参加者の生活の一部にサロンを位置付けてもらえることができた。（現在は、「友引の日」にも寺を地域開放してくれ、地域活動ができています）
22年度以降～現在	助成期間終了後、サロン活動を継続・拡大し、最大4か所まで開催するまでに。また、フォーラムで話し合ったことで参加メンバーの地域福祉への意識の醸成ができ、これまでに岩根東地区まちづくりとして、住民主体の介護予防活動「ふまねっと運動」や「筋力アップ体操」を、防災では、いわねイーストまつりや県災害対策コーディネーター養成を、子供達の健全育成では、いわね子供まつり、いわねこどもサロン（こども食堂）を、また町内会による高齢者の居場所「笑楽会」（老人クラブ）の開設等、地区社協活動を超えた地域での活動の広がりが出ている。

3 地域福祉フォーラムの成果

居場所づくり（サロン活動）を中心に活動・話し合いを進めたが、地域福祉フォーラムを実施したことにより、地域活動が伝播し、住民主体による様々な活動が生まれてきている。行政や社協に頼るだけでなく、自発性が強くなり、地域自身で地域の福祉課題解決へ向けた具体的な活動に取り組むことができるようになってきている。

4 課題や今後の展開

地域福祉フォーラムの助成期間終了後も、サロンを継続的に開催し、サロンの開催箇所を4地区まで（現在は3地区）増やすとともに、住民主体で新たな居場所づくりを進めているところだが、急速に進む高齢化や少子化、現役世代の流出など地域の課題は山積している。そうした中、高齢者や子どもと限定することなく、誰もが気軽に立ち寄れ、日常生活の一部として世代間交流ができる、「総合的な居場所づくり」が必要だと考え、地域の元気な高齢者を担い手として取り込みながら、気軽に立ち寄れる居場所づくりを展開していく予定。また、個々の活動に依存している傾向もあり、地域全体（まちづくり協議体を母体）で課題解決に取り組める体制作りを強化していくことも視野に入れている。

5 考察

地域福祉フォーラム事業に申請・採択されたことを契機に、地域の中で集まる場づくりを中心に活動を展開。危機意識の高さから、課題と考えたことをそのままにせず、実際の活動として展開し、地域住民の居場所づくりを継続的に行っている。今後の展望も視野にいれながら、常に変化ある地域と向き合い住民主体で活動に取り組む姿勢は、他地区も参考となる点だと考える。

【市町村社協の役割】

木更津市社協は、住民主体の活動、地区社協主体の活動となるよう心がけ、地域福祉フォーラムの実施についての事業理解を進めるために、打ち合わせや説明会を実施した。また各地区社協や住民主体の活動開始時には、市社協メンバーも地区活動に参画し、他地域の活動紹介や活動の現状把握、相談に乗っている。